

地域おこし協力隊1期生最終年度

協力隊だより



発行者 氷見市地域おこし協力隊
住所 氷見市鞍川1060番地
氷見市 秘書・市民と
ともに創る未来政策課内
電話 0766 (74) 8013



2016年10月の活動報告会にて

着任から丸2年 最終年度に向けての想いは？

平成27年4月から氷見市地域おこし協力隊として着任した第1期生たちも、いよいよ最終年度をむかえます。残された時間へのそれぞれの想いと意気込みを聞いてみました。

澤田典久

（福井県出身）

エコレストラン・6次産業化起業支援ファシリテーターの澤田です。3年目に向けて、1・2年目で培ってきたものを開花させるべく、氷見の食文化での地域おこしを3つの形にしていきたいと思っています。

1つ目は、速川地区の農家レストラン兼ゲストハウスの建設とプロデュースを行うこと。2つ目は、魚食リレーディングプロジェクトにおけるキッチンカーの運営・管理を軌道に乗せること。3つ目に、人が集い、会話を楽しみ、人と人のつながりが生れる、そこには氷見の食材を活かした料理が並び、皆が酒を酌み交わす、そんなコミュニティスペースの経営が実現できること。

最終年度も日々全力で頑張りますので、皆様の応援よろしくお願いたします。

稲垣信志

（愛知県出身）

6次産業化ファシリテーターの稲垣です。着任当時は、NPO速川活性化協議会でサツマイモ栽培から加工販売を行ってききました。

この2年間で、脇之谷内自治会、氷見有機の里づくり協議会、特産稲積梅生産組合等、氷見の里山に携わる多くの方々と一緒に、水見の里山の産物を消費者に伝わる物語を演出することを意識してきました。協力隊任期後も農林業の活動を軸に、販路拡大を行っていきます。

また氷見の民工芸伝承、空き家対策、里山観光等での起業を行う所存です。そのために最終年度は、起業準備の1年と位置付け、生業づくりに正面から取り組みたいと思います。これからも氷見の皆様と、一緒に頑張って里山を盛り上げていきたいと思っております！

山下健太郎

（福岡県出身）

空き家・移住担当の山下です。3年目は実際に空き家を活用し楽しめる場所を生み出していきたいと思っています。

まず、NPO速川活性化協議会が取り組んでいる移住促進計画の拠点を作るため、現在サツマイモの加工場として利用している倉庫を改修し、食を楽しみ、時に宿泊もできる場所をつくるお手伝いをしたいと考えています。

また現状の空き家情報バンクをより移住希望者に響く内容とするために、登録物件の魅力をさらに深める記事づくりを行い、移住希望者と深くコミュニケーションがとれるようにしたいと思っています。そして自分自身の起業と氷見での暮らしを確立するため空き家を活かした事業づくりを行う予定です。

藤田智彦

（千葉県出身）

着任より2年間、中央町のまちづくりバンクを拠点として活動してきた経験を活かして、最終年度となる4月からは中央町商店街の活性化を中心に行ってきたいと考えています。

北の橋工事による影響が大きい中央町商店街ですが、まずは定期的なイベントにより人の流れをもう一度変え、同時に空き店舗の実態調査と若手起業者の入居促進事業を並行して進めることで新しい賑わいをつくり出すべく、現在、市や商店街とともに計画の策定を進めています。

任期を終えた後も継続して関わり続けられるよう「稼ぐ事業」という課題も掲げ、具体的な成果を残し、次に繋がる1年となるよう邁進する所存です。引き続きどうぞよろしくお願いたします。

釜石拓真

（青森県出身）

これまでの2年間、氷見の風土や市の情報を発信する映像を制作してきました。今年度は、宮田小学校で保存されていた8mmフィルムなどの記録を展示する新しい試みにもチャレンジしました。

同時に起業に向けて自身の仕事に打ち込む時間も多い1年でした。食を発信する映像、映像作りワークショップ、ウェブCMの制作など、最終年度は、これまで積み重ねてきたスタイルを昇華させ、事業として自立できるような取り組みにしていきたいと思っています。起業にあたっては周りの人のお知恵をお借りしながら、準備を進めているところですので。

微力ではありますが、氷見市に貢献できる生業をつくっていただけたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。





©Kensuke Horise

ひみよりのハナシ 気嵐(けあらし)をご存知でしょうか？

気嵐とは、霧の一種ですが、海や川、池などの水温が気温よりも高くなる時に起きる現象です。北海道の留萌の気嵐が有名ですね。

暖流が流れ込み、放射冷却によって気温が氷点下あたりになることや、無風であるなど条件が重なると気嵐が発生します。

留萌は西側ですが、氷見市は、朝陽が東となる海から昇るまちであり、条件が良ければ気嵐ととも朝陽を拝することができま。ちようど、この時期は立山連峰から陽が昇ります。

まるで、絵画の中のような、幻想的な空間がそこに現れます。

頻繁に見られる現象ではありませんが、天気予報などから予測は可能です。

天気予報で風がなく、一時間ごとにも晴れ、前日の夜空に星が見えていれば放射冷却が続く可能性は高く、気嵐に出会える可能性は一段と高くなります。なかなかお目にかかれなだけあって、出会えたときの感動は大きいです。

長年住んでいる方であれば通勤時間帯の海では当たり前前の光景かもしれないが、立ち止まって見てみるとその美しさに思わず息を呑むことでしょう。

北海道の留萌のように、気嵐観察のスポットになるように、日本国内のみならず世界に向けて、氷見の写真を発信していきます。

撮影場所：氷見市阿尾海岸
撮影・文 広瀬謙典

環境と共存する自然栽培

自然栽培普及員の高橋啓介です。氷見元氣やさいの会で活動しています。

自然栽培は肥料や農薬といった資材を畑に持ち込まず、環境に影響を与えにくい栽培方法です。完全に放置栽培というわけではなく、必要な時期には植物が本来持っている力を引き出すために手を加えます。自然を本手に、原産地に近い環境を作り出すためにマルチやハウスなどを使用します。

また、野菜の栄養価

も高く、体にも優しいです。肥料と農薬を用いない代わりに人間が手を加えるため、家庭菜園に向いています。

来年度からは大浦地区に畑を移し活動する予定です。春から夏野菜の栽培を行い、種まき、栽培管理、収穫イベントなどを行っていきます。

自然栽培を学びたい方を対象に、農園の貸し出しも行い、実際に野菜を育てながら栽培方法を学んでいただける場となる予定です。(高橋啓介)

【自然栽培のお野菜を使った重ね煮のご紹介】



今まで料理の講座を開催してきた中で、一番人気のある「重ね煮」をご紹介します。重ね煮とは調理方法の一つで、家にある野菜を細かく切って、種類ごとに鍋の中に層にして重ねて入れて蒸すだけ。料理の苦手な人でも簡単！おいしい！しかも、いろいろ使いまわしができて便利です。

今回は協力隊の高橋さんが育てている自然栽培の野菜を使って調理しました。

<作り方>

- ①鍋の底に軽く塩をふる。
 - ②材料を切る。
 - ③切った野菜を種類ごとに重ねて鍋の中に入れる。
- 今回は一番下から、えのき、たまねぎ、かぶ、さつまいも、さといも、にんじんの順に重ねました。鍋のふちギリギリまで野菜を入れるのがポイント。
- ④野菜の上にも軽く塩をふり、フタをして弱火でじっくり蒸し煮する。
- ※水分の多い野菜が入るときは水は入れなくて大丈夫。
根菜など水分の少ない野菜が多い場合は、少し水を入れてください。



<食べ方>

- そのまま食べる。美味しく子どももよく食べます。離乳食にも使えます。
- しょうゆやマヨネーズなどで味付けする。
- 料理の具材として、アレンジして食べる。

今回は、できあがった重ね煮を3等分して、1つはひき肉と混ぜて餃子に、1つは千切りの生野菜とマヨネーズとみそと和えてサラダに、残りは味噌汁にしました。元は1つの重ね煮。でも、こうしていろいろなものに変身させられるので、とっても便利です。しかも水を入れてなければ、常備菜として冷蔵庫で3日くらい保存できます。

作ってみたい方やご質問がある方は、いつでもご連絡ください。
070-5639-8050 osan_gakkou@live.jp 笹野暉

今後の活動予定

- 3月**
- 5日「チベット医小川康先生と楽しく学ぶ化学講座」/ 13:00 ~ 16:00 藪田ハウス (広瀬)
 - 18日「たねのはなし」野口種苗研究所 / 13:30 ~ 氷見市役所 協働スペース (高橋)

3/26(日) 10:00 ~ 13:30
ファーム中田『いちご狩り体験婚活』開催！
【問い合わせ・申込み】
mail:himikotoyama0209@gmail.com
tel:080-6351-7836 (水間)

【編集後記】

もう何回も経験しているはずなのに、毎年冬の寒さには負けてしまいそうになります…。ですが、春もすぐそこ！暖かくなっていく日々が心躍ります。新しい年度へ向けて、やってみたい事もいっぱい！頭の中の妄想に行動を伴わせていけるよう、また新たな気持ちで挑んでいこうと思います。新年度からも、どうぞよろしくお願いたします。(キタムラ)

3月号編集担当：高橋・広瀬・笹野・笠井
https://www.facebook.com/himiokoshi/

イベント報告

2月2日に「成功する企業の資金計画の立て方」と題したセミナーを開催しました。本セミナーは富山第一銀行氷見支店の協力のものと実施。同行から講師を派遣していただき、起業の事業計画、中でも資金に焦点を絞ってお話をしてもらいました。

新規開業は、産業の新陳代謝を促進し、地域経済を活性化する役割を持ち、開業率は政府の成長戦略の中でも重要な指標となっています。

しかし、富山県の開業率は、ここ10年一貫して全国平均の開業率を1%程度下回っており、県内の開業率を高めることは、富山経済の活性化のための喫緊の課題です。

セミナー当日は、氷見市内はもとより射水市、富山市、砺波市などから多くの参加者が集まり、熱心に講



(笠井伸一郎)

義を聞いておられました。参加者の一人は「起業したいという想いはずっとあった。しかし、その方法、特に会計等に馴染みがなく、また相談する相手もおらず、一步を踏み出せずにいた。これを機に少しづつ実行していきたい」と語っていました。

地域おこし協力隊が、起業に向けたセミナーを通じて地域おこし活動をするのは非常に珍しいケースです。今後も既存の協力隊の枠にとらわれず、「氷見市の協力隊」らしい、多様性に富んだ活動をしていきたいと考えています。